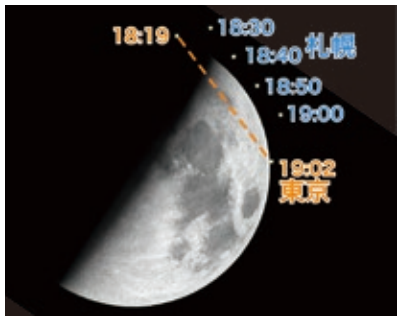




旬の話題

星食…星を食べる？

ある天体が別の天体によって隠されることを「食」と呼びます。日食や月食はよく聞きますが、他の天体でも起こることがあるんです。2024年12月には、月が他の天体を隠す現象が続き、星食を体験できる好機になります。12月8日には「土星食」。沖縄から関東・東北にかけて土星が月に隠されるようすが見られます。残念ながら札幌では食にはなりません。月のすぐ近くを通る土星を探してみましょう。望遠鏡をお持ちの方なら、12月9日に「海王星食」（札幌では17時35分頃）や、12月14日には「プレアデス星団食」（午前3時～午前5時頃）もチャンスがあります。



観望会のご案内

札幌市天文台

【住所】中島公園内（コンサートホールKitaraと豊平館の間）
 【休台日】月曜日、火曜日午後、祝日の翌日
 【お問い合わせ】☎011-511-9624（札幌市天文台）

★昼間公開

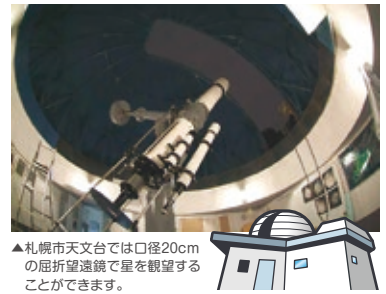
日程 火曜日 10:00～12:00
 水曜日～日曜日 ①10:00～12:00 ②14:00～16:00

観望対象 太陽、昼間に見える星

★夜間公開

11月の日程 ①11月1日（金）～11月3日（日）
 ②11月15日（金）～11月17日（日）
 18:00～20:00

観望対象 ①土星・秋から冬の星座
 ②月・木星・土星・秋から冬の星座



▲札幌市天文台では口径20cmの屈折望遠鏡で星を観望することができます。

○今年度より昼・夜ともに事前予約は不要になりましたので、直接札幌市天文台へお越しください。混雑時は順番に中へご案内いたしますので、天文台の外でお待たせいただく場合があります。
 ○雨天・曇天時は観望は行いませんが、天文台を公開し天文に関する質問対応や解説を行います。＊荒天時には質問対応等も中止になる場合があります。

プラネタリウム利用案内

プラネタリウムの内容は、職員による星空生解説+プラネタリウム番組です。

プラネタリウム入場時刻【11・12月】※プラネタリウム祭り期間(12/7・8・14・15)は別スケジュールになります。

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
11月	平日 10:15 団体専用 ※番組は団体の希望による	11:30 団体優先 ほしをつかまえたおうじ	12:45 団体優先 ダークユニバース	14:00 おぼけのマーレ	15:15 水の惑星
	土・日・祝 10:15 おぼけのマーレ	11:30 宇宙船レオの大冒険	12:45 水の惑星	14:00 ながれほしのひみつ	15:15 全編生解説プラネ
12月	平日 10:15 団体専用 ※番組は団体の希望による	11:30 団体優先 宇宙船レオの大冒険	12:45 団体優先 水の惑星	14:00 おぼけのマーレ	15:15 全編生解説プラネ
	土・日・祝 10:15 おぼけのマーレ	11:30 ほしをつかまえたおうじ	12:45 ダークユニバース	14:00 ながれほしのひみつ	15:15 水の惑星

プラネタリウム番組

おぼけのマーレとゆめのとびら

当館オリジナル番組

【おすすめ】
ちいさなお子さまと保護者

30分番組(アニメーションと星のおはなし)

「おぼけのマーレ」がプラネタリウムにやってきました!

ほしをつかまえたおうじ

当館オリジナル番組

【おすすめ】
ちいさなお子さまと保護者

30分番組(アニメーションと星のおはなし)

おうじはほしをつかまえて、なにをおねがいするのでしょうか。

宇宙船レオの大冒険

【おすすめ】
ちいさなお子さまと保護者

30分番組(番組15分・解説15分)

宇宙でいちばん速い宇宙船レオに乗って、宇宙パトロールへ出発!

ダークユニバース

【おすすめ】
小学校高学年以上

50分番組(番組30分・解説20分)

ダークマターとダークエネルギーにスポットを当て、宇宙の謎にせまります。

サイエンジャーとながれほしのひみつ

当館オリジナル番組

【おすすめ】
小学校低学年以上

50分番組(番組15分・解説35分)

流れ星ってどんなもの?仕組みや見るときのコツを紹介します。

水の惑星-星の旅シリーズ-

50分番組(番組30分・解説20分)

【おすすめ】小学校高学年以上

東南地球から星空を望み、星の世界に水を探そうがはじまります。

全編生解説プラネ(テーマ:惑星)

50分番組(すべて生解説)

【おすすめ】小学生以上

当日の星空と11～12月のテーマ「惑星」について、解説員がご紹介します。星空解説をたっぷり聞きたい方におすすめです。

休館日 11/5・11・18・25・26、12/2・9・16・23・27・28・29・30・31

観覧時間 5月～9月 …… 9:00～17:00
 10月～4月 …… 9:30～16:30 (入館は閉館の30分前まで)

観覧料	大人	中学生以下
展示室	700円(500円)	無料
プラネタリウム	500円(360円)	無料
セット券	1,000円(860円)	無料

※()は、65歳以上の方、障害者手帳もしくはアプリ「ミライロID」をご提示の方 ※さぼーとさつぽろ会員割引あり ※その他、回数券、年間パスポート等あり

— 科学の今と未来をつなぐ —

札幌市青少年科学館

Sapporo Science Center

(札幌市青少年科学館 指定管理者 公益財団法人 札幌市生涯学習振興財団)

〒004-0051 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目2-20
 [TEL]011-892-5001 [FAX]011-894-5445 [ホームページ]https://www.ssc.slp.or.jp

お知らせ
 展示室・プラネタリウムのオンライン予約を始めました。科学館ホームページからご確認ください。



2024年
11・12月号
 Vol.113

札幌市青少年科学館天文情報リーフレット

星空散歩

HOSHIZORASAMPO



天王星→

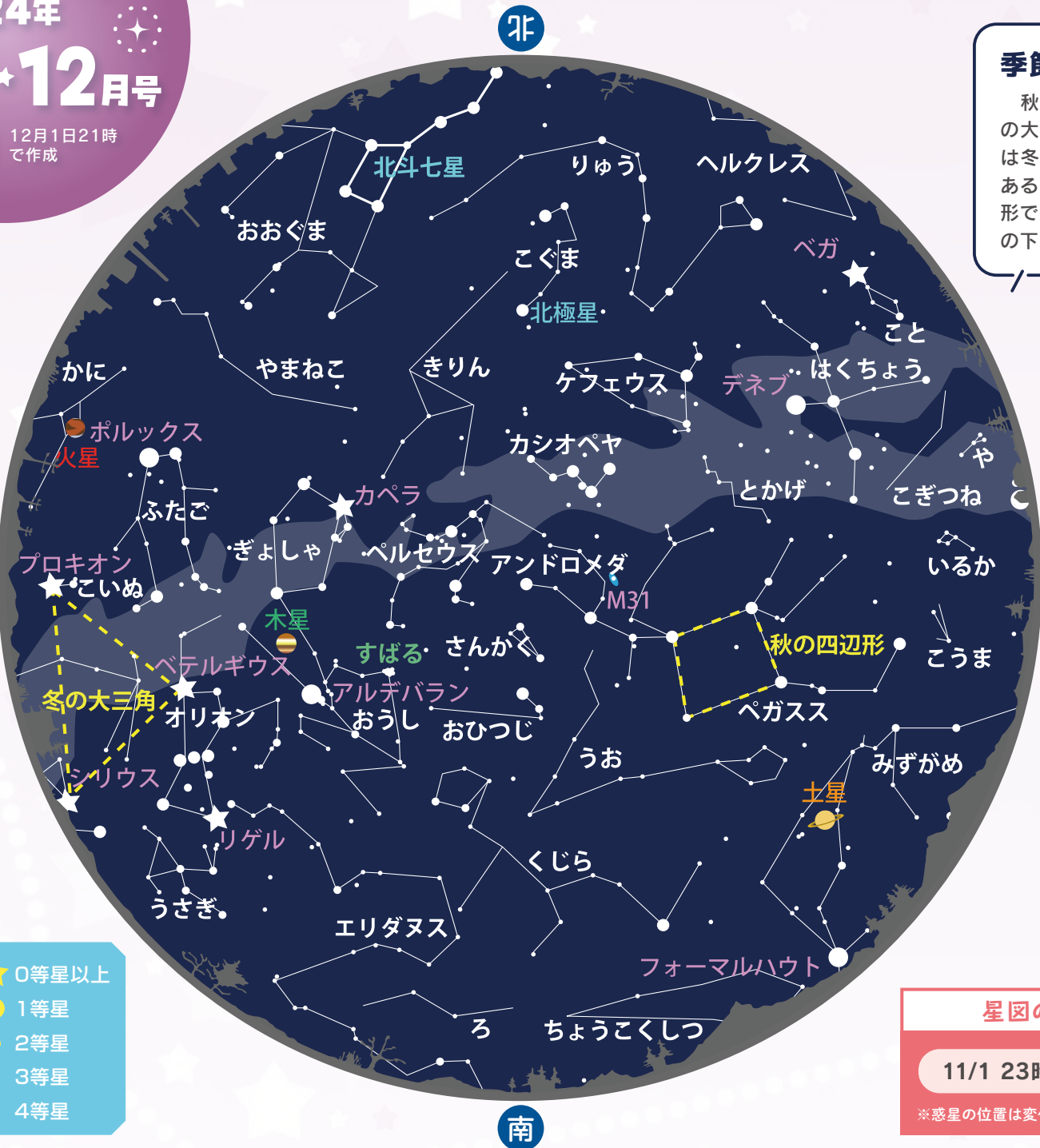
今回の表紙写真は… 皆既月食と天王星食

地球の影が月全体に落ちる「皆既月食」と、地球から見て月の後ろに惑星が隠される「惑星食」が同時に起こるのはとても珍しく、この日は442年ぶりの出来事でした。次回は西暦2344年7月の皆既月食で土星食を同時に楽しめますよ。

アンケートのお願い

よりよい誌面を作るため、みなさんの声をお聞かせください。

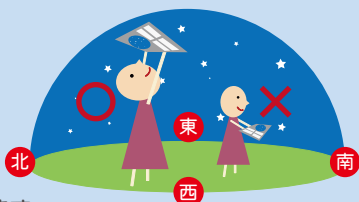
撮影者：札幌市青少年科学館(布廣直人) 撮影日：2022年11月8日20時48分頃 撮影地：札幌市西区
 機材等：Canon EOS 6D+SHARPSTAR 76EDPH、ISO1600、F4.5相当、シャッタースピード1/4秒、Lightroomで調整後、トリミング。



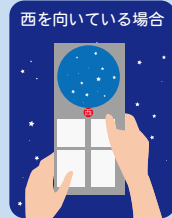
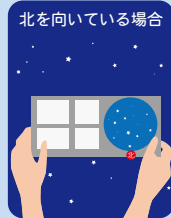
季節の星のたどり方

秋から冬にかけて星探しの目印となるのは「秋の四辺形」と「冬の大きな三角」。西の空に秋の四辺形を見つけることができ、東の空では冬の大きな三角が遅い時間に見えはじめます。冬の大きな三角の西側にあるオリオン座は2等星以上の星がたくさんあり、リボンのような形で並んでいるため街中でも見つけやすいです。今年は秋の四辺形の下あたりに土星、オリオン座の上に木星が見えます。

星図の使い方



- ①星図は空にかかげて使います。
- ②空にかかげたら、自分の向いている方角と星図の方角とを合わせて星を探しましょう。



星図のように見える時刻

11/1 23時ごろ 12/1 21時ごろ

※惑星の位置は変化するため、12/1の位置を示しています。

月のかたち

- 満月 11/16、12/15
- 下弦 11/23、12/23
- 新月 11/1、12/1、12/31
- 上弦 11/9、12/9

旬の話題

ふたご座流星群がやってくる!

毎年恒例の三大流星群のひとつ、ふたご座流星群の季節がやってきます。今年は12月14日の10時ごろに極大を迎えると予想され、12日夜から15日明け方までの夜の時間に普段より多くの流れ星が見られるでしょう。しかし、今回は12月15日が満月となります。月に照らされた明るい夜空のもとでは暗い流れ星が見えづらくなるため、条件が良くありません。とはいえ、ふたご座流星群は明るい流れ星も多いのが特徴なので、諦めずに探してみましょう。周りが暗い場所では、1時間あたり多くて30~40個程の流れ星が観察できるかもしれません。



2020年のふたご座流星群
場所：豊頃町ハルニレの木

流れ星はふたご座のあたりから空全体へ放射状に流れていくので、夜空を広く見渡すことがポイント。月の輝きから離れた方向の空を見る、手や建物などの陰を活用するなど、視界に月明かりが入らないように意識すると観察しやすくなります。暗さに目が慣れるまで最低15分程はかかります。とても寒い時季ですので寒さ対策を忘れずに。

星座のおはなし

アンドロメダ座のおはなし

この星座のモデルは、ギリシャ神話に登場するアンドロメダ姫。頭部でティアラのように輝くアルフェラツは「秋の四辺形」のひとつです。左足首には二重星のアルマクがアンクレットのよう輝きます。腰のあたりにあるのがアンドロメダ銀河で、私たちの銀河系から近く、大小マゼラン雲とともに局部銀河群を構成しています。秋の夜空には明るい星が少ないといわれていても、夜空を彩る彼女からは目が離せない!



みつけかた

秋の四辺形のひとつアルフェラツがアンドロメダ姫の頭部です。そこからカシオペヤ座、北極星の方向へと延びる、Aの字のような星並びが目印です。天の川の岸に横たわっているように見えるアンドロメダ座を思い浮かべてみましょう。

● 11月…南の空21時ごろ ● 12月…南西の空21時ごろ